

リアル授業と オンライン授業の 二刀流に挑戦



令和2年5月15日
中国蘇州日本人学校



1 離れていても学びの機会を届けたい

中国蘇州日本人学校では、新型コロナウイルスの影響のため、1月下旬から、約3か月間の臨時休校となりました。休校期間中は、職員も自宅勤務となり、思うような学校業務が行えない状況ではありましたが、ソーシャルネットワークサービス「wechat」を利用し、職員同士で情報を共有したり、連絡を取り合ったりしながら学校再開の準備を進めてきました。



新年度準備のため荷物整理

ZOOM を利用した学習質問コーナーの実施

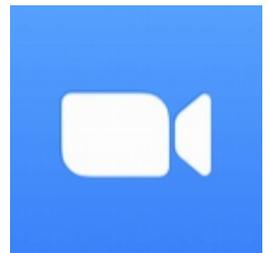
春節の休みから、学校の休校が長期化し再開が決まらない中、本校ではインターネットを使った情報通信で、児童生徒とコミュニケーションを取るために何ができるかを考えていました。

まずは、本校のホームページを利用して、未履修の内容の補習プリントを掲載しました。答えも掲載し、児童生徒が家庭で学習が行えるように対応しました。

次に、週に1度、テレビ電話のように顔を見ながらやり取りができる会議アプリ「Zoom」を利用し、ホームページに掲載した問題でわからないことや質問を受け付ける「学習質問コーナー」を実施することにしました。

しかし、当然ながら、ネット環境や機器の保有状況は各家庭で異なります。保護者の皆さんには事前に wechat を利用して、学習質問コーナーの実施予定日をお知らせしたり、「Zoom」を初めて利用する方が困らないように、「Zoom」の使用手順を紹介したりしました。接続が不安な児童生徒を対象に、時間を分けてリハーサルも行いました。

「学習質問コーナー」の初日は、児童も職員も「つながった」だけで喜んでいました。中国と日本という離れた場所で



4月の職員会議は Zoom 開催

も、顔を見て話ができるだけで、何とも言えない幸せな気持ちになることを実感しました。児童生徒に学習の様子を聞くことも大切ですが、学校職員としては、現在、児童生徒がどこにいて何をしているのか知りたいという切実な気持ちがありました。

中学部は「各教科の質問コーナー」だけでなく、理科の実験動画や英会話の授業を行いました。「Zoom」の画面共有を活用して、補助資料も合わせて生徒に提示しました。

小学部は、職員が児童に話してもらいたい項目をホワイトボードに記入しておき、児童はその内容について短時間でスピーチをしたり、最近の悩みを相談したりしました。

中国語会話や〇×クイズなどを通して、児童生徒と会話を楽しみながら交流することができました。



質問コーナーの様子

下の文章は、保護者からのメールを一部抜粋したものです。

日本では週一回の Zoom の時間だけが唯一の精神的にリラックスできる時間です。

日本では緊急事態宣言は、全国に発令するほどに事態は酷くなっています。日本で待機している生徒も一時的な体験入学や転入した生徒たちも全て学習の機会を失っています。

学習の遅れを気にしてるというより、このような状況では大人が思う以上に不安な毎日だと思います。

現在先生方のお力で Zoom で質問の時間を設けていただいております。感謝しています。そして蘇州に戻りたい、蘇州日本人学校で勉強したいと思っている生徒たちが先生方とつながっているという実感をもっともっと持たせてあげて欲しいと思います。

蘇州での状況も日々変わり大変かと思いますが、是非ご検討ください。蘇州日本人学校の生徒として自信を持って戻れるように蘇州から支えて欲しいと思います。

「#学びを止めない未来の教室」の利用

経済産業省のホームページに掲載中である新型コロナウイルス感染症による学校休校対策「#学びを止めない未来の教室」では、EdTech事業者の皆様の様々なアプリが紹介されています。本校では掲載されていた企業と連絡を取り、学習支援サポートを受けることができました。ここでは「スタディサプリ」と「Qubena」について紹介します。



① スタディサプリ（3/17～4/30まで利用）

スタディサプリは，“世界の果てまで，最高のまなびを届けよう”がコンセプトのオンライン学習サービスです。



本校では，小学部3年生から中学部3年生までの児童生徒が利用しました。初期設定は登録マニュアルを読みながら，情報を入力していきます。Excelのテンプレートがあるので，一括してアップロードが可能となり，時間をかけず簡単に行うことができました。

次に宿題の配信です。「スタディサプリ」には，40,000本以上の授業がそろっています。そこで，各学年の先生と協力して，それぞれの学年に合った動画を選択しました。

例えば中学部1年生には，各教科の未履修内容の動画と中学2年生で学習する動画を選択しました。日本に一時帰国をしている児童生徒は，日本の学校の課題もあるので，児童生徒の無理のない範囲で行えるように配慮しました。そのため，本校の利用者は108名（本校の児童生徒の約3分の1）に留まりましたが，取り組んだ児童生徒の反応を見ると，学習に効果的だったことがわかりました。下の内容は児童生徒・保護者の感想です。

- ・難しい言葉が出てきても，分かりやすく教えてくれた。（小4女子）
- ・動画を見て終わりではなく確認テストにも取り組むことで理解が深まった。（中1女子）
- ・先生がユニークで，面白い授業をしてくれるのですぐに理解できた。（中3男子）
- ・なかなか続かないアプリ学習で唯一続いたスタディサプリ。授業の時間配分が子どもの集中できる時間に設定されていて，毎回ストレスなく終わることができた。（保護者）

② AI型タブレット教材 Qubena（キュビナ）（3/9～4/30まで利用）

AI（人工知能）を搭載した「Qubena」は，生徒一人ひとりの学習中の操作ログや計算過程，回答データを分析することで，つまづく原因となっているポイントを特定し，その生徒が解くべき問題へと自動的に誘導し，効果的で効率的な学習を実現するアダプティブラーニング（Adaptive Learning）教材です。



アダプティブラーニングとは，生徒の理解度や学習進捗度などに合わせて学習内容を調整し，一人ひとりに見合った最適な教育を実現する学習方法です。

「Qubena」は小学算数・中学数学の学習指導要領をカバーする全単元が収録されており，タブレット端末とインターネット環境があれば，日本，中国関係なく学習することができます。本校では，小学部1年生から中学部3年生までの児童生徒82名が利用しました。

初期設定ですが、まず本校の各学年の先生のデータを Excel のテンプレートシートに貼り付けます。次に児童生徒の学年、名前、ID、パスワードを設定します。こちらも Excel のテンプレートシートに入力していただくだけでしたので、作業時間は1時間程度でした。

タブレットでは実現が困難だった「定規・コンパス・分度器を使った作図」や「関数のグラフ作成」にも対応しています。シンプルな操作で、本質的な学習が可能です。下の内容は、利用した生徒の感想です。

- ・計算力がアップして、テストの点数が2倍になりました。(小6男子)
- ・休校中は次の学年の予習をすることができたので、とてもよかった。ちょっとした時間に使いたいアプリです。(小6女子)
- ・書き込むところが大きいので書きやすいし、解説もわかりやすくとても勉強になった。(中1女子)
- ・間違えた問題は復習できるし、苦手なところをAIが集中的に出題してくれるので、これまでわからなかった問題がわかるようになった。(中2男子)

2 本校におけるオンライン授業の実践

本校では、現在、日本で学校に通学することができない児童生徒に向けて、オンラインで授業を公開しています。中学部はほぼ全ての授業、小学部は主に国語と算数の授業を公開しています。

本校は、これまでICT (Information and Communication Technology) 機器を用いた授業に力を入れてきており、児童生徒側のITリテラシーも十分にある状況でしたので、オンライン授業を行うにあたり抵抗感が少なかったように思います。



**職員同士で Zoom の
利用方法を教え合う様子**

ロイノート・スクールの活用

本校は、平成30年度よりロイノート・スクールを利用しています。このアプリは、児童生徒の思考をサポートしながら、その考えを相手に伝えることが出来るアプリです。



ロイロノート・スクールを使うことにより、児童生徒は、カードを線でつなげるなど、短い時間で自分の考えをまとめることができます。またテキスト、PDF、写真や動画などメディアを選ばず、さまざまな種類のカードを作ることができます。さらに、このアプリには、資料の配布・提示・回収、共有など、授業で必要となる基本的な機能がすべてそろっています。

下の内容は、中国で2週間の隔離対象となり、オンライン授業を受けた生徒の感想です。

オンライン授業は初めての取組で、私もどうなるのか不安はありました。しかしロイロノートを使って資料を送ったり、宿題を出したり、学校に行っているのと同じくらいに授業ができています。ロイロノートは本当に何でもできるのですごくいいと思います。

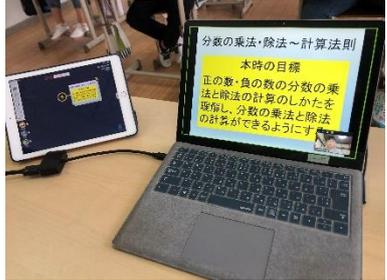
提出物や友達との話し合いの時も、提出箱に送るだけでみんなが見れるので、意見を共有するのがとても便利です。離れていてもみんなの意見をいちいち聞くのではなく自分の画面ですぐ見れます。またカードに質問を書いて、先生に送れば簡単に質問もできるので、わからないところがあるけど、聞く人がいないという状態にはなりません。

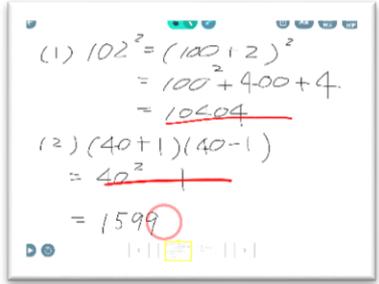
コロナが収まった後も使い続けたほうがいいと思うほどのアプリです。（中2生徒）

本校のオンライン授業の進め方

本校では、ビデオ会議アプリ「Zoom」や授業でよく利用していた「ロイロノート」を利用しながら授業を行います。今回は、中学部の数学の授業の進め方を紹介します。

時間	授業の内容	そのときの様子
7:30 登校前の教室	生徒が登校する前の教室で、授業動画の撮影をします。動画編集アプリ「Lecta」を利用することで、動画の容量の削減ができ、教員の移動に合わせて、カメラも自動で追って撮影してくれるので大変便利です。	 撮影時間は3～5分です
10:40 授業開始 5分前	ノートPCでZoomのミーティングを開始します。ノートPCはHDMIケーブルを利用し、電子黒板につなぎます。 またタブレットは、ロイロノートをログインしておきます。	 毎時間準備が大変です

<p>10:45~11:00 あいさつ スライド資料 前半 15分</p>	<p>チャイムが鳴ったら、教室にいる生徒の号令に合わせて、日本の生徒もあいさつをします。Zoomのマイクのミュートは解除しておきます。授業が始まったら、日本の生徒はミュート設定をします。マイクをONにしたままだと、雑音が入って授業に集中できないことがあります。</p> <p>Zoomの画面共有を利用し、PowerPoint資料を提示します。Zoomを利用し、板書を映すこともできますが、字が見えにくいこともありますので、画面共有はおすすめです。蘇州の生徒に質問しながら、スライド資料を進めていきます。日本の生徒は、Zoomの反応をタップし、蘇州の生徒の発表に拍手ボタンを押すことで、解答を共有します。</p>	 <p>ZoomはPCでサインインし生徒のチャットによる質問に対応します</p>  <p>オンラインでも生徒の声を活かしながら授業をつくることに変わりはありません</p>
<p>11:00~11:15 ロイロノート 提出箱の設定</p> <p>日本の生徒が 発表する方法</p>	<p>途中で生徒の学習状況を確認するために、ロイロノートの提出箱を利用して、生徒に問題を出題します。生徒は、問題を自分のノートに書き、写真に撮って提出したり、カードを一枚準備して、タブレット上で答えを書き込んだりします。提出期限を1, 2分と設定することで、時間内に提出しようと集中して取り組みます。教員は、生徒の解答にすばやく丸を付けて返信することで、学習状況を把握することができます。</p> <p>ロイロノートの画面共有機能を使うことで、日本にいる生徒に解答を発表してもらうことができます。Zoomから音声を聞き取るだけでは、どうしても理解できない場合が出てきます。ですがロイロノートの画面上に、発表する生徒の解答が書いてあるので、それを見ながら発表を聞くことで理解が深まるはずで</p>	 <p>iPad（ロイロノート）の画面を見ながら日本の生徒の学習状況も把握</p>

	<p>す。日本にいる発表者が、タブレット上で赤線をひくと、授業に参加している全員のタブレット画面に同時に反映されますので、要点を確認することも容易にできます。</p>	 <p>日本の生徒の解答が蘇州の生徒の iPad の画面に反映</p>
<p>11:15~11:25 授業動画再生 ノート記入 10分</p> <p>グループ活動 の実施</p>	<p>ロイロノートの資料箱に、本時の授業動画を準備しておきます。</p> <p>事前に授業動画を撮影しておくことで、突然映像が見られないなどの可能性がなくなり、生徒にとっても、自分のペースで学習を行うことができます。</p> <p>また、Zoom のブレイクアウトルームを利用することで、Zoom 授業に参加している生徒を少人数に分けることが可能です。問題をより深く考えさせたいときなどは、グループ討議を行うといいと思います。</p>	 <p>授業の動画を繰り返し学習することができます</p>  <p>イヤホンを装着することで友達に音が漏れません</p>
<p>11:25~11:35 本時のまとめ 宿題提出 あいさつ</p>	<p>ロイロノートの提出箱に、本時の学習の宿題を設定します。授業動画を見てノートに記入している時間に、設定するといいと思います。提出箱のタイトルは、教科書のページ数と問題番号を書くと分かりやすいです。</p>	 <p>宿題の提出期限は翌日の授業の開始時刻に設定します</p>

生徒の感想

・ビデオを通じて友達と勉強できるので楽しい。意見を共有することもできるので他の人の意見も取り入れることができる。どの教科も見たり、聞いたり出来るので実際に学校に通っているような気分になります。（中1女子）

・蘇州日本人学校の先生達が Zoom での授業をしてくれて、友達が勉強を頑張っている姿を見て、僕も頑張らなきゃと思うのでよかったなと思います。（中2男子）

・Zoom の授業があると、蘇州の友達と授業を受けれるし、楽しい気持ちで勉強できて、明日、明後日、毎日が楽しくなった。Zoom があるから出来ることもたくさんあります。全国にオンライン授業を取り入れて、楽しいと思える人が増えるといいです（中1女子）

予測困難な時代だからこそ、情報を共有して協力する

私達、蘇州日本人学校の職員は、常に蘇州の児童生徒のために、何ができるのかを考えて行動しています。全国から集まった先生と事務職員、スタッフ一丸となって、学校運営に取り組んでいます。

この資料を通して、蘇州日本人学校の取組が、世界各地の日本人学校や日本全国の学校の先生方の少しでもお役に立てれば幸いです。

世界的に新型コロナウイルスの危機に直面していますが、予測が困難な時代だからこそ、皆さんと協力して難局を乗り越えていきたいものです。



**事務室の皆さんもアプリの
研修に意欲的に参加しました**